令和9（2027）年度
日本体育大学大学院　身体総合学術研究科
身体総合学術専攻　博士後期課程
学生募集要項

・体育科学学位プログラム
・コーチング科学学位プログラム

本研究科入学試験の出願手続きはインターネット出願（以下、Web 出願という。）となります。
出願前には、マイページ登録が必要です。時間には余裕を持って出願を行ってください。
なお、Web 出願時に登録されたメールアドレスには、大学から入学試験に関する重要なお知らせが配信されますので、変更や削除の可能性がなく、日常的に確認できるメールアドレスを準備してください。

◇不測の事態が発生した場合の諸連絡
不測の事態により入学試験要項の記載内容に変更が生じた場合は、本学のホームページにより周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。
その他の入試に関する最新情報についても公表しますので、随時確認してください。

日本体育大学

目　次

Ⅰ．身体総合学術専攻　体育学研究群　博士後期課程について
1．人材養成その他教育研究上の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2．学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
3．教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
4．入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

Ⅱ．受験要領
1．募集人員 ・・6
2．出願資格 ・・6
3．学位プログラム及びコース ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
4．入学試験日程等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
5．選抜区分及び出願要件 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
6．出願書類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
在留外国人の方・外国の学校出身の方へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
7．外国籍を有する者の出願書類について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
8．障がい等のある入学志願者の事前相談について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
9．出願手続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
10．受験票について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
11．選抜要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
12．受験上の注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
13．合格発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
14．入学手続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
15．学　　費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
16．出願前の個別審査が必要な方へ　≪出願資格認定審査について≫・・・・・・・・・・・・・・15

Ⅲ．2027 年度　研究指導担当教員及び研究指導領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
【博士後期課程】研究指導教員一覧表（研究指導補助教員を含む）・・・・・・・・・・・・・・・27

Web 出願の流れ、出願写真に関する注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（巻末）

《各種様式・所定用紙》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（別添）
博士後期課程提出用紙
「履歴書」、「研究業績一覧（様式）」、「志望理由及び研究計画書〈表紙〉」、「承諾書」、「在職証明書」、
「外国人入学願書」、「研究指導教員推薦書」、「入学試験に係る事前相談について」

出願資格認定審査提出用紙
「出願資格認定審査申請書（博士後期課程）」、「研究業績調書（様式）」、「競技実績概要書（博士後期課程）」

Ⅰ．身体総合学術専攻　体育学研究群　博士後期課程について

１．人材養成その他教育研究上の目的

(1) 体育科学学位プログラム

体育スポーツに関連する普遍的並びに現代的問題の解決を目指し、幅広い学識と高度な専門的知識を有し、自立した教育者・研究者として高度の学術研究により国際社会に貢献できる人材を養成する。

学位プログラムのもとで学生自身が立てた学修プログラムや研究計画を尊重しつつ、体育スポーツの教育者・研究者として自立して教育研究を行い、教育研究職をはじめとする専門業務に必要な能力および深い学識を養う。

(2) コーチング科学学位プログラム

コーチングの理論と実践の新たな地平を切り拓く知的リーダーとして、独自の問いを立て、既存の枠組みを批判的に検討しながら、新たな概念や方法論を構築・提案できる研究者、コーチデベロッパーを養成する。学際的かつ国際的な視座のもと、体育・スポーツにおけるコーチングの在り方に対して構造的変革をもたらし、教育・実践・政策領域におけるイノベーションを推進する能力を備えた、学術と実践を架橋する専門職研究者の育成を目指す。また、高い倫理観と対話力をもって、次世代の学びを導く支援者としても、社会に貢献できることを期待する。

研究活動と学術的対話を通じて、独自の問いを立て、理論を構築・検証する力を養う。また、学際的・国際的な視点からコーチングに関する実践課題を分析・再定義し、知見として社会に発信する能力を育成する。さらに、他者の学びを支援する立場として、学習環境の設計、内省を促す対話、実践の省察と変容を導く高度なファシリテーション能力を涵養し、コーチデベロッパーとしての専門性も備えた人材の育成を図る。

２．学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

(1) 体育科学学位プログラム

本学大学院学則及び関連規程に規定する修了の要件を充足した上で、次の知識･能力を有することが認定されたものに博士（体育科学）の学位を授与する。

《知識･理解》

［DP1］学際的知識

体育学・教育学・保健医療学など、身体に関する学際的視点に基づき、幅広くかつ高度な知識を有する。

［DP2］専門的知識

体育スポーツ科学に関する高度な専門的知識を修得し、最新の研究動向を理解している。

［DP3］倫理観

独立した研究者として必要な倫理的知識と倫理観を備え、社会的責任を十分に理解している。

［DP4］国際性

体育スポーツ科学に関する知見を国際的視野から捉え、国際的な学術動向を把握している。

《専門的能力・汎用的能力》

［DP5］研究遂行力

自ら研究課題を主体的に設定し、独立して高度な研究計画を立案・実施できる。研究の各プロセスを統括し、独創的かつ発展的な研究成果を創出できる。

［DP6］論理的思考力

複雑な研究課題や成果を多角的かつ批判的に分析し、論理的・体系的にまとめる力を有し、独自性・学術的妥当性を追求し、論文執筆や発表において高度な論理展開力を発揮できる。

［DP7］発信力・表現力

専門知識や研究成果を的確かつ分かりやすく構成し、多様な場面で自立して表現・伝達できる。

(2) コーチング科学学位プログラム

本学大学院学則及び関連規程に規定する修了の要件を充足した上で、次の知識･能力を有することが認定されたものに博士（コーチング科学）の学位を授与する。

《知識･理解》

［DP1］学際的知識

体育学・教育学・保健医療学など、身体に関する学際的視点に基づき、幅広くかつ高度な知識を有する。

［DP2］専門的知識

コーチング学に関する高度な専門的知識を修得し、最新の研究動向を理解している。

［DP3］倫理観

独立した研究者として必要な倫理的知識と倫理観を備え、社会的責任を十分に理解している。

［DP4］国際性

コーチング学に関する知見を国際的視野から捉え、国際的な学術動向を把握している。

《専門的能力・汎用的能力》

［DP5］研究遂行力

自ら研究課題を主体的に設定し、独立して高度な研究計画を立案･実施できる。研究の各プロセスを統括し、独創的かつ発展的な研究成果を創出できる。

［DP6］論理的思考力

複雑な研究課題や成果を多角的かつ批判的に分析し、論理的・体系的にまとめる力を有し、独自性・学術的妥当性を追求し、論文執筆や発表において高度な論理展開力を発揮できる。

［DP7］発信力・表現力

専門知識や研究成果を的確かつ分かりやすく構成し、多様な場面で自立して表現・伝達できる。

３．教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を達成するため、「大学院共通科目」「体育学研究群共通科目」「体育学研究群専修科目」「体育学研究群研究指導科目」により体系的に教育課程を編成している。

(1) 体育科学学位プログラム

［CP1］体育学、教育学、保健医療学など身体に関する学際的領域を基盤としつつ、各専門分野の最新の研究動向を理解し、自らの研究領域を深化させるため、「大学院共通科目」を配置し「身体総合学術特論」を置く。

《DP に掲げる知識･能力》学際的知識・専門的知識・倫理観

［CP2］研究計画の立案、発表、討論を通じて、研究内容を論理的に構成し的確に伝える力を養うとともに、課題設定から検証、成果発表までの一連の研究プロセスを体系的に修得するため、「体育学研究群共通科目」を配置し「研究報告演習」を置く。

《DP に掲げる知識･能力》研究遂行力・論理的思考力・発信力・表現力

［CP3］高度な専門的知識と研究技能を修得し、自身の研究課題を深化させることを目的として「専修科目」（特論演習）を配置する。

《DP に掲げる知識･能力》専門的知識・研究遂行力

［CP4］指導教員のもとで、研究計画の立案から分析、論文検索（外国語論文含む）、論文執筆、成果発表に至る一連のプロセスを実践的に遂行することで、研究遂行力・論理的思考力・発信力・倫理観・国際性を総合的に育成するため、「体育科学研究Ⅰ～Ⅲ」を配置する。

《DP に掲げる知識･能力》研究遂行力・論理的思考力・発信力・表現力・倫理観 ・国際性

(2) コーチング科学学位プログラム

［CP1］体育学、教育学、保健医療学など身体に関する学際的領域を基盤としつつ、各専門分野の最新の研究動向を理解し、自らの研究領域を深化させるため、「大学院共通科目」を配置し「身体総合学術特論」を置く。

《DP に掲げる知識･能力》学際的知識・専門的知識・倫理観

［CP2］研究計画の立案、発表、討論を通じて、研究内容を論理的に構成し的確に伝える力を養うとともに、課題設定から検証、成果発表までの一連の研究プロセスを体系的に修得するため、「体育学研究群共通科目」を配置し「研究報告演習」を置く。

《DP に掲げる知識･能力》研究遂行力・論理的思考力・発信力・表現力

［CP3］高度な専門的知識と研究技能を修得し、自身の研究課題を深化させることを目的として「専修科目」（特論演習）を配置する。

《DP に掲げる知識･能力》専門的知識・研究遂行力

［CP4］指導教員のもとで、研究計画の立案から分析、論文検索（外国語論文含む）、論文執筆、成果発表に至る一連のプロセスを実践的に遂行することで、研究遂行力・論理的思考力・発信力・倫理観・国際性を総合的に育成するため、「コーチング科学研究Ⅰ～Ⅲ」を配置する。

《DP に掲げる知識･能力》研究遂行力・論理的思考力・発信力・表現力・倫理観 ・国際性

４．入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

体育学研究群では各学位プログラムの教育目的を達成するために、以下の資質を有する学生を求めます。

(1) 体育科学学位プログラム

［AP1］体育スポーツ科学において、修士課程修了相当の高度な専門的知識と研究技能を有する者。

［AP2］体育スポーツ分野における研究者、指導者、啓発者として、国内外で積極的に体育・スポーツに携わる意欲をもつ者。

［AP3］体育スポーツ科学の研究および実践において、独創的な発想と発展性を備え、学術領域の新たな知見や価値の創出に主体的に挑戦する意欲を持つ者。

［AP4］国際的な研究活動に対応できる基礎的な英語力、またはそれに準ずる語学力を有することが望ましい。

(2) コーチング科学学位プログラム

［AP1］体育スポーツ科学において、修士課程修了相当の高度な専門的知識と研究技能を有する者。

［AP2］体育スポーツ分野における指導者、研究者、啓発者として、国内外で積極的に体育・スポーツに携わる意欲をもつ者。

［AP3］体育スポーツ科学の研究および実践において、独創的な発想と発展性を備え、学術領域の新たな知見や価値の創出に主体的に挑戦する意欲を持つ者。

［AP4］国際的な研究活動に対応できる基礎的な英語力、またはそれに準ずる語学力を有することが望ましい。

Ⅱ．受験要領

１．募集人員

身体総合学術研究科　身体総合学術専攻

課程	学位プログラム	募集人員 （Ⅰ期、Ⅱ期募集合わせて）
博士後期課程	体育科学学位プログラム	８名
	コーチング科学学位プログラム	３名

２．出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

（１）修士の学位を有する者又は令和 9(2027)年 3 月 31 日までに授与される見込みの者

（２）専門職学位を有する者又は令和 9(2027)年 3 月 31 日までに授与される見込みの者

（３）外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は令和 9(2027)年 3 月 31 日までに授与される見込みの者

（４）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は令和 9(2027)年 3 月 31 日までに授与される見込みの者

（５）我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は令和 9(2027)年 3 月 31 日までに授与される見込みの者

（６）学校教育法施行規則第 156 条第 4 号の規定により、国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は令和 9(2027)年 3 月 31 日までに授与される見込みの者

（７）学校教育法施行規則第 156 条第 5 号の規定による外国の学校等において、大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

（８）文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第 118 号）

大学を卒業し、又は外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、２年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

（９）本学大学院において行う個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時までに 24 歳に達する者

①大学を卒業後、各種の教育・研究機関等において研究又は指導に従事した期間が２年以上ある者又は６年制課程の医学部・歯学部・獣医学部・薬学部を卒業した者。

②著書、学術論文等において、修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績（学会誌に掲載された学術論文等）あるいは高度の運動競技歴を有する者。

※重要

出願資格（８）（９）の該当者は、事前に出願資格認定審査が必要です。15 頁で確認し手続きをしてください。出願資格認定審査の申請をし、審査の結果、出願資格が認定された者は本研究科の入学試験に出願することができます。

３．学位プログラム及びコース

学位プログラム	コース
体育科学学位プログラム	体育スポーツ文化社会学コース
	スポーツマネジメントコース
	ハイパフォーマンス科学コース
	健康スポーツ医科学コース
	身体教育・健康教育コース
コーチング科学学位プログラム	

４．入学試験日程等

	Ⅰ期試験 一般、社会人、外国人選抜	Ⅱ期試験 一般、社会人、外国人選抜 内部進学選抜
出　願　期　間 （Web 出願登録、出願書類受付期間） ※期間内消印有効	2026 年 10 月 2 日(金) ～2026 年 10 月 9 日(金)	2026 年 12 月 21 日(月) ～2027 年 1 月 8 日(金)
試　　験　　日	2026 年 11 月 7 日(土)	2027 年 2 月 6 日(土)
合 格 発 表 日	2026 年 11 月 13 日(金)	2027 年 2 月 12 日(金)
入学手続締切日	2026 年 11 月 27 日(金)	2027 年 2 月 26 日(金)

５．選抜区分及び出願要件

<table>
<tr><th>選抜区分</th><th>対象学位プログラム</th><th>出願要件</th></tr>
<tr><td>一般選抜</td><td>全学位プログラム</td><td>「２.出願資格」に該当する者</td></tr>
<tr><td>社会人選抜</td><td>全学位プログラム</td><td>「２.出願資格」に該当し、有職者として１年以上の経験年数を有する者。
※注意：本学研究科の授業は、社会人専用の時間割編成はしていません。授業の開講方法等については、本学ホームページにて確認してください。</td></tr>
<tr><td>外国人選抜</td><td>全学位プログラム</td><td>わが国における「留学」の在留資格を有する者又は本研究科入学までに資格を取得する予定の者で「２.出願資格(3)、(4)、(5)」のいずれかに該当し、日本国籍を有しない者。</td></tr>
<tr><td>内部進学選抜（Ⅱ期試験のみ）</td><td>全学位プログラム</td><td>令和８（2026）年度本学大学院体育学研究科博士前期課程修了見込みの者で、身体総合学術研究科博士後期課程における同コース等の学位プログラムへ出願する者。
<table>
<tr><th>令和８年度所属
（体育学研究科博士前期課程）</th><th>令和９年度内部進学出願先
（身体総合学術研究科博士後期課程）</th></tr>
<tr><td>体育スポーツ文化社会学コース</td><td>体育スポーツ文化社会学コース</td></tr>
<tr><td>スポーツマネジメントコース</td><td>スポーツマネジメントコース</td></tr>
<tr><td>トレーニング科学コース</td><td>ハイパフォーマンス科学コース</td></tr>
<tr><td>健康スポーツ医科学コース</td><td>健康スポーツ医科学コース</td></tr>
<tr><td>身体教育･健康教育コース</td><td>身体教育・健康教育コース</td></tr>
<tr><td>コーチング科学学位プログラム</td><td>コーチング科学学位プログラム</td></tr>
<tr><td>コーチング実践学学位プログラム</td><td>コーチング科学学位プログラム</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

※出願資格(8)、(9)の該当者は、事前に出願資格認定審査の申請をして、審査の結果、出願資格が認定された場合に**一般選抜**で出願することができます。

６．出願書類

出願書類のうち所定用紙となっているものは、別添《各種様式・所定用紙》から印刷して作成してください。

※提出する各種証明書の記載氏名が出願時の氏名と異なる場合は、氏名変更が確認できる戸籍抄本等の書類もあわせて提出してください。

●：全員提出　△：該当者のみ提出

（注意：提出書類について） 提出書類のサイズは全て「A4 サイズ：片面印刷」で提出してください。		提出該当者			
		一般選抜	社会人選抜	外国人選抜	内部進学選抜※
出願書類	連絡事項・注意事項				
(1)志願票・写真票	Web 出願完了後、Web 出願サイトより印刷してください。 余白および志願票・写真票は切り離してください。	●	●	●	●
(2)履歴書（所定用紙）	研究歴がある場合は、「学歴」または「職歴」欄に記入してください。 記入欄が不足した場合は、同一様式の別紙に記入し、添付してください。	●	●	●	●
(3)研究業績一覧（様式）	・ 様式については、同様のものをパソコン等で作成したものでも可とする。 ・ 著書、学術論文、翻訳、学会発表等を「著書」・「学術論文」・「その他」に区分し、それぞれの業績を年代順に記載してください。また、「学位論文」（修士論文または博士論文）は最後に記載してください。※「学位論文」は、提出が可能な場合に限る。 ・ 概要欄は、論文、著書等ごとに 200 字程度で記入してください。共著の場合は担当部分及びページ数を明記し、全員の氏名を記載し、本人氏名に下線を引いてください。なお、共著の場合で本人の担当部分を明確にできないときはその理由を明記してください。(例：共同研究につき本人担当部分抽出不可能) ・ 学会誌、雑誌等はその名称の他、巻・号まで記入してください。 ・ 投稿予定のものは含めないでください。 ・ 記入欄が不足した場合は同一様式の別紙に記入し添付してください。 ・ 本研究科における研究計画の内容と特にかかわりのある「著書」、「学術論文」、「翻訳」、「学会発表の要旨」等がある場合は、それらを証明できる資料（コピー可）を添付してください。掲載予定のものについては、掲載証明書を添付してください。 ・ 提出可能な場合に限り「学位論文」（修士論文または博士論文）を添付してください。（コピー可） ・ 6 年制課程の医学部・歯学部・獣医学部・薬学部を卒業した者で、医師免許・歯科医師免許・獣医師免許・薬剤師免許を有する者は、その写しを提出してください。	●	●	●	●

(4)修士学位論文の要旨	修士学位論文を要旨として 800 字程度、A4 一枚でまとめてください。 ・ パソコン等で作成してください。 ・ 必ず論文のタイトルと氏名を記載してください				●
(5)志望理由及び研究計画書（所定用紙）	① 表紙（所定用紙）について ・「本学大学院を志望した理由」を 200 字程度にまとめ、研究計画書の表紙としてクリップ等で綴じてください。 ・ 必ず希望する研究指導教員と相談し、指導の同意を得てください。 ※「2027 年度研究指導担当教員及び研究指導領域」及び「[博士後期課程]研究指導教員一覧表(研究指導補助教員を含む)」を参照 ② 研究計画書について ア）これまでの自己の研究（博士前期課程または修士課程の研究もしくは論文の概要)、イ）博士後期課程における研究の先行研究との関連性及びその特色や独自性、ウ）3 年間の研究計画（方法を含む）についてそれぞれ項目を分け、A4 判の用紙（横書き）にパソコン等により、和文 3,000 ～ 4,000 字程度または英文 1,000 ～ 2,000 語程度にまとめてください。	●	●	●	●
(6)博士前期課程または修士課程学業成績証明書	出身大学長が作成したもの	●	●	●	●
(7)博士前期課程または修士修了(見込)証明書	出身大学長が作成したもの	●	●	●	●
(8)承諾書(所定用紙)	入学後に在職予定の者は、雇用責任者または代表者の承諾書を提出してください。個人事業主は不要。	△	△	△	△
(9)在職証明書(所定用紙) ※所定用紙と同内容であれば、所属機関が発行したものでも可。	【社会人選抜】で出願する者 出願要件を満たすことを証明できる在職証明書または派遣証明書を提出ください。(複数の職歴で出願要件を満たす場合は、該当する職歴の証明書を全て提出してください。その際、所定用紙をコピーして現旧所属機関に依頼してください。		●		
(10)外国籍を有する者の出願書類	外国籍を有する者は、出願書類の他に、以下の書類を提出してください。 現に日本国内に在住し、在留資格が「特別永住者」、「永住者」の者は①住民票の写しまたは住民票記載事項証明書のみ提出。 ①住民票の写しまたは住民票記載事項証明書（3 か月以内に発行されたもので、国籍、在留資格、在留期間を明記したもの） ②在留カードの写し ③外国人入学願書（所定用紙） ④パスポートの氏名・生年月日が記載されたページの写し	△	△	●	△
(11)研究指導教員推薦書（所定用紙）	研究指導担当予定教員からの推薦書				●

在留外国人の方・外国の学校出身の方へ

★ 在留外国人の方は、必ず確認してください。

最終学歴の各種証明書について

日本国外（中国を除く）の大学・大学院を卒業・修了した方

卒業・修了証明書等に取得学位の記載がない場合には、学位取得証明書も提出してください。

中国の学校を卒業または修了した方は、「中国の学校を卒業・修了された方へ」に記載されている通りに書類を提出してください。

最終学歴の各種証明書は、原則として日本語または英語で表記された原本に限ります。

日本語または英語以外の言語で表記されている場合は以下の書類を提出してください。

各種証明書の原本※	出身学校から発行されたもの。 出身学校から 1 部しか発行されない場合は、公的機関が発行する Certified true copy でも構いません。
日本語または英語翻訳文※	大使館や自国公証処等の公的機関で認証を受けたものに限る。

※日本語教育機関（日本語学校等）が発行・認証するものは認めません。

中国の学校を卒業・修了された方

中国の学校を卒業・修了された方は、以下の書類を提出してください。

証明書類の入手に時間を要することが想定されます（申請から発行まで 5 週間程度かかる場合もあります）ので、早めに準備をしてください。

（1）卒業証書・卒業証明書「学歴認証書」(Verification Report of China Higher Education Qualification Certificate)

CHSI（中国高等教育学生信息網）が発行し、英文で記載されたもの。

※1 Online Verification Report of China Higher Education Qualification Certificate を提出する場合は下記の注意をよく読んで手続きしてください。

（2）成績証明書 「成績認証書」(Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript)

CHSI（中国高等教育学生信息網）が発行し、英文で記載されたもの。

※1 Online Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript を提出する場合は下記の注意事項をよく読んで手続きしてください。

（3）学位取得証明書「学位認証書」(Verification Report of China Higher Education Degree Certificate)

CHSI（中国高等教育学生信息網）が発行し、英文で記載されたもの。

博士前期課程を受験する方は、学士学位（Bachelor's Degree）を取得していることが証明されていること。

※ 1 Online Verification Report of China Higher Education Degree Certificate を提出する場合は下記の注意をよく読んで手続きしてください。

学歴、成績、学位の認証書は CHSI 中国高等教育学生信息網（ https://www.chsi.com.cn/en/pvr/ ）が取り扱っています。
日本国内では CHSI 日本代理機構（ http://www.chsi.jp/ ）での発行申請が可能です。

※ 1 電子データの認証書を提出する場合は、出願期間内に CSSD 教育部学生服务与素质发展中心から直接、日本体育大学大学院教学センター（ daigakuin@nittai.ac.jp ）に電子メールで送信されるように申請してください。

志願者による電子メールの転送は出願書類として認めません。出願期間を過ぎた場合は出願を受理しないことがありますので、気をつけて手続きしてください。

７．外国籍を有する者の出願書類について

外国籍を有する者は、「６．出願書類」を確認し、所定用紙を提出してください。

なお、本学では保証人は出願時には必要としませんが、入学手続時に保証人を定めて届けることとしています。保証人は日本国籍を有する成年であって、日本国内に居住し独立の生計を営む者とします。日本国籍を有する二重国籍者は提出不要です。

８．障がい等のある入学志願者の事前相談について

けが及び障がい等により受験時または入学後の配慮を希望する場合は、下記《事前相談の方法》を確認し、必ず事前相談をしてください。

なお、重度の障がいのある方は、できる限り早い時期にご相談ください。

《事前相談の方法》

事前相談の申請は、「申請書類」の「入学試験に係る事前相談について」を作成の上、医師の診断書などの必要な書類を添付して提出してください。

※ 提供いただいた個人情報は、支援内容検討のために関係部署と共有します。

なお、必要な書類に不明な点がある場合は、提出前に大学院教学センターに確認してください。

申請書類

（１） 入学試験に係る事前相談について」（所定用紙）
（２） 医師の診断書（原本又は写し）
（３） 身体障害者手帳（氏名・障がい名の頁の写し）（所持者）
（４） その他相談する際に必要と考えられる参考資料

９．出願手続

「Web 出願の流れ」を確認して手続きしてください。出願は Web 出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、必要書類を郵送して完了となります。登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

Web 出願は 24 時間可能です。ただし、出願登録は出願締切日 23 時まで、入学検定料の支払いは出願締切日まで（営業時間はコンビニエンスストアや ATM など、施設によって異なります）、必要書類の郵送は出願期間内消印有効です。

（１）入学検定料の支払い

入学検定料：１受験につき３５，０００円

（注）本学大学院体育学研究科博士前期課程修了見込みの者で、

内部進学選抜区分出願者の場合は、入学検定料５，０００円

Web 出願サイト「STEP 5 （入学検定料の支払い）」に従って支払手続きをしてください。

（２）出願書類の郵送

書類の郵送：出願期間内消印有効

Web 出願完了後に、Web 出願サイトより宛名シートを印刷し、貼付した角 2 封筒に提出書類を封入して、「速達･特定記録郵便」で郵送してください。「特定記録郵便物等受領証」は保管しておいてください。なお、窓口での出願受付は行っておりません。詳細については、「STEP 6 （必要書類の郵送）」を確認してください。

①志願票・写真票

入学検定料支払後、出力可能となります。A4 サイズで印刷し、切り取り線に沿って切り取ってください。

②選抜毎の提出書類

詳細は、各選抜の提出書類を確認してください。

◎注意事項

① 不備のある出願書類や出願締切日後に到着した出願書類は一切受け付けません。
② 一度提出した出願書類及び支払われた入学検定料は一切返還しません。

【入学検定料の返還請求（払込手数料を除く）ができる場合】

・入学検定料を支払ったが、本学に出願書類を発送しなかった。または出願書類が受理されなかった。

・入学検定料を誤って二重に支払った。
③ 提出書類の内容に虚偽があった場合は、出願や合格を取り消すことがあります。

１０．受験票について

出願書類到着後、Web 出願の登録内容をもとに本学が作成し、Web 出願サイトよりダウンロードできる状態にしますので、必ず印刷し、試験当日持参してください。「STEP 7 （受験票の印刷)」を参照のこと。
※ 受験票のダウンロードが可能になりましたら、出願時に登録したアドレスへメールで通知します。
※ 試験 3 日前までに Web 出願サイト上に受験票が確認できない場合、大学院教学センターまで連絡してください。

１１．選抜要領

〔試験実施日〕
Ⅰ期試験：2026 年 11 月 7 日（土） 東京・世田谷キャンパス 教育研究棟
Ⅱ期試験：2027 年 2 月 6 日（土） 東京・世田谷キャンパス 教育研究棟

選抜区分	受付時間	試験時間	試験科目	内容・留意事項等
一般選抜 社会人選抜 外国人選抜			書類選考	出願提出書類にて審査する。 a）履歴書 b）研究業績一覧 c）志望理由及び研究計画書 d）博士前期・修士課程学業成績証明書
	8:30～9:00	9:30～	口述試験	【発表・説明】 ・これまでの研究概要の発表 ・志望動機、及び入学後の研究計画等の説明 【質疑応答】 ・専門分野に関連する事項 ・研究計画等に関する内容 ※資料等の使用可。但し、試験担当者へ資料を配布する行為は不可とする。 ※試験は原則、日本語で行う。
内部進学選抜 （Ⅱ期のみ）			書類審査	出願提出書類の内容にて審査する。 a）履歴書 b）研究業績一覧 c）志望理由及び研究計画書 d）博士前期課程学業成績証明書 e）修士学位論文要旨 f）研究指導教員推薦書

１２．受験上の注意

（１）試験当日の注意事項

① 持参するものについて
「受験票」、「筆記用具」、「時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものを除く)」、「昼食・飲み物」（任意）
※受験票を紛失または忘れた場合は、試験当日、受付に申し出てください。
② 受付で受験票を提示してください。受付後は、速やかに指定された試験場へ入室してください。また、受付後に担当者の許可無くキャンパス内を出歩くことはできません。なお、試験終了までキャンパス内から出ることはできません。
③ 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ、ウェアラブル端末等の電子機器類は試験場に入る前に必ずアラー

ムの設定を解除し電源を切り、すべての試験が終了するまでかばん等にしまってください。

④ 車での来学はできません。公共交通機関をご利用ください。
試験前日までに可能な限り試験場までの道順、所要時間等を実際に確認しておいてください。

⑤ 試験開始後 30 分を超えた遅刻は認めません。

⑥ 公共交通機関の事故等により、受付時間に間に合わない場合は、直ちに大学院教学センター（03-5706-0915）へ連絡するとともに、交通機関において遅延証明書の交付を受けてください。

⑦ インフルエンザ等の感染症にかかり治癒していない者は、他の受験生に感染するおそれがあるため受験はできません。試験当日の体調管理については十分に注意してください。なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験などの措置、入学検定料の返還は行いません。

（２）口述試験について

① 口述試験の説明は、随時行いますので、着席してお待ちください。

② 試験場へは担当が誘導しますので、誘導されるまでは控室で待機してください。

③ 試験場へは全ての荷物を持って移動してください。

④ 受験票等所持品について
・「受験票」は、口述試験時に試験担当者に手渡してください。
・携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等の電子機器類は試験場に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切り、試験場(キャンパス内）から退構するまでかばん等にしまってください。
【注意】電子機器の使用については、休憩中も含めて使用は一切禁止と致します。

⑤ 口述試験時では、資料等の使用を可とします。但し、試験担当者へ資料を配付する行為は不可とします。
試験時に資料を必要とする方は、予め試験会場へ入室するまでに資料を用意しておいてください。

⑥ 口述試験は日本語で行います。

⑦ 試験終了後は、速やかに退構してください。

１３．合格発表

Ⅰ期試験：2026 年 11 月 13 日（金）10 時

Ⅱ期試験：2027 年　2 月 12 日（金）10 時

合格発表は合格者のみ通知します。学内掲示は行いません。本学の正式な合格発表は、合格発表日に合格証明書等の発送をもって行いますが、受験生の便宜を考慮し、「合否照会システム（インターネット)」による合否案内を行います。

なお、不合格通知書は送付いたしません。また、本学に直接連絡をしても合否に関わるお問い合わせは一切受け付けませんので、下記照会方法をご確認ください。

（１）利用方法・注意点

① インターネット、スマートフォン及び携帯電話で利用できます。

② 合否照会について、「誤操作」及び「見間違い」を理由とした、入学手続期間終了後の入学手続は認めません。

③ 合否発表当日は混雑のため回線がつながりにくいことがあります。その場合は、少し時間をおいてアクセスしてください。

④ 合否照会システムの利用期間は次のとおりです。

合否照会システム利用期間		
Ⅰ期試験	2026 年 11 月 13 日（金）～ 2026 年 11 月 27 日（金）	初日 10：00 ～
Ⅱ期試験	2027 年 2 月 12 日（金）～ 2027 年 2 月 26 日（金）	最終日 23：59 まで

（２）インターネット（携帯電話・パソコン）での照会

https://www.gouhi.com/nittai/

合否照会システム利用期間内に上記アドレスへアクセスし、画面の指示に従って操作してください。
また、本学ホームページ（https://www.nittai.ac.jp/）より、上記アドレスへアクセスできますので、ご利用ください。

１４．入学手続

（１）入学手続時納入金の手続締切日

Ⅰ期試験：2026 年 11 月 27 日（金）

Ⅱ期試験：2027 年 2 月 26 日（金）

① 入学手続時納入金は、合格証明書に同封されている所定の「振込用紙」を使用し、手続締切日までに金融機関窓口で手続きを行ってください。
② 合格者で手続締切日までに入学手続時納入金が未納だった場合は、入学辞退とみなしますので注意してください。
③ 振込金受領書（本人保存）は、入学手続きをした証明になりますので大切に保管してください。

（２）入学辞退について

【窓口】 2027 年 3 月 31 日（水） 17：00 まで
【郵送】 2027 年 3 月 31 日（水） 消印有効（速達・特定記録郵便としてください。）
入学手続時納入金を振込み後、入学を辞退する場合は、上記期限までに入学辞退届（所定用紙）を提出してください。
入学金を除く納入金を返還します。なお、返還には期間を要しますので、早急に手続きをしてください。

○提出先：日本体育大学 大学院教学センター
〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7－1－1
TEL 03-5706-0915
事務取扱時間：平日 8:30 ～ 17:00
冬季一斉休業期間：2026 年 12 月 26 日（土）～ 2027 年 1 月 5 日（火）

１５．学　費

授業料及び施設整備費は、全額の 1/2 相当額を後学期に分納することができます。その場合、入学手続時の納入金額は、入学金・授業料（前学期分納分）・施設整備費（前学期分納分）・健康管理費・学友会費・同窓会入会金の合計金額となります。後学期は授業料（後学期分納分）・施設整備費（後学期分納分）のみとなります。

2027 年度 日本体育大学大学院身体総合学術研究科　博士後期課程学費等一覧　（円）

費目		納入期	金額			
			日本体育大学以外の卒業生		日本体育大学卒業生	
			前学期	後学期	前学期	後学期
①学　費	入学金	入学時のみ	100,000	－	0	－
	授業料	分納可	350,000	350,000	350,000	350,000
	施設整備費	分納可	50,000	50,000	50,000	50,000
	健康管理費	前学期	10,000	－	10,000	－
②その他費用	学友会費	前学期	13,000（入会金 1,000 円を含む）	－	12,000	－
	同窓会入会金	入学時のみ	20,000	－	0	－
総合計（①＋②）		分納の場合	543,000	400,000	422,000	400,000
		一括納入の場合	943,000		822,000	

《寄付金について》

本学では、教育研究環境充実のため、寄付金を募集する場合があります。

但し、いずれも応募は任意で、入学前には募集いたしません。

●「国の教育ローン」（教育貸し付け）について

「国の教育ローン」は、「家庭の経済的負担の軽減」、「教育の機会均等」という目的のために昭和 54 年に創設された公的な融資制度です。民間金融機関の補完を旨とする政策金融機関である日本政策金融公庫（日本公庫）が扱っています。

詳しくは教育ローンコールセンター 0570－008656（03－5321－8656）、または「国の教育ローン」で検索、https://www.jfc.go.jp/から「国の教育ローン」を選択してください。

１６.出願前の個別審査が必要な方へ

≪出願資格認定審査について≫

本学大学院研究科では、「学校教育施行規則第 155 条第 1 項第 8 号の規定」により、前記「出願資格（8)、(9)」に該当する出願資格認定対象となる方について、出願資格の有無を判定するために予備審査を行います。

「出願資格認定審査」は、入学者選抜試験ではありませんので注意してください。

出願資格認定審査要領

審査を希望する方は、必ず大学院教学センターまで事前相談を済ませた上で申請願います。

出願資格認定審査には、下記書類の提出が必要になります。提出期日等を確認の上、お早目にご準備ください。事前相談を済ませていない場合は申請できません。

※出願資格認定審査に提出した書類内容に虚偽が発生した場合は、入学試験に合格した場合でも合格の取り消しとなりますので注意願います。

審査基準

1「２．出願資格（８)」で出願資格認定審査の対象となる場合

大学を卒業し、又は外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

②「２．出願資格（9)」で出願資格認定審査の対象となる場合

「修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」とは①及び②の基準を満たす者

①研究歴等について 《次のいずれかに該当する者》

a.大学を卒業後、各種の教育・研究機関等において研究または指導に従事した期間が 2 年以上ある者

b.6 年制課程の医学部・歯学部・獣医学部・薬学部を卒業した者

②研究業績等について 《次のいずれかに該当する者》

a.著書、学術論文等において、修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績（学会誌に掲載された学術論文等）を有する者

b.高度の運動競技歴を有する者

・提出書類

① 出願資格認定審査申請書（所定用紙）
② 卒業(見込)証明書（最終学歴のもの）
③ 最終学歴における「学業成績証明書」
④ 研究業績調書（様式）
⑤ 競技実績概要書（所定用紙）該当者のみ
⑥ 研究歴、研究業績、高度の運動競技歴を証明できる資料

・提出方法

封筒に、「出願資格認定審査書類在中」と朱書きし、必ず「**速達・特定記録郵便**」で必要な書類を大学院教学センターに郵送してください。「特定記録郵便等受領証」は保管しておいてください。

・送付先　〒158-8508　東京都世田谷区深沢７- 1 - 1　日本体育大学 大学院教学センター

・書類提出期限（郵送のみ）

Ⅰ期試験：2026 年 9 月 4 日（金）必着　　Ⅱ期試験：2026 年 12 月 1 日（火）必着

・審査結果

Ⅰ期：2026 年 9 月 11 日（金）、Ⅱ期：2026 年 12 月 11 日（金）

登録されたメールアドレスにお知らせします。

Ⅲ．2027 年度 研究指導担当教員及び研究指導領域

体育科学、コーチング科学学位プログラム　博士後期課程

研究指導担当教員の表記内容		
★★	研究指導教員	研究指導を担当することができる
★	研究指導補助教員	研究指導教員とともに研究指導ができる

【注意事項】
出願前に必ずご自身の希望する研究指導教員、または研究指導補助教員と連絡を取り、担当教員とご自身の考えている研究内容を十分にご相談して下さい。事前の連絡を取らずに出願する事がないようにして下さい。

教員検索（大学HP 教員情報データベース）	研究者検索（国立研究開発法人科学技術振興機構）

■体育科学学位プログラム（コース毎・50 音順）

（体育スポーツ文化社会学コース）

教員名	研究指導領域
★ 教授　荻　浩三 修士（体育学）	研究分野：スポーツ史 研究内容のキーワード：スポーツ史、体育史、スポーツ地理学 「スポーツ史」 ① 一般研究領域（一般史） 「スポーツ通史」「世界スポーツ史」「時代別スポーツ史」「地域別スポーツ史」、など ② 個別研究領域（特殊史） 「スポーツ競技種目史」「スポーツ思想・人物史」「スポーツ教育史」「スポーツ産業史」「スポーツ形態史」「スポーツ学説史」「スポーツ施設・用具史」「スポーツ技術史」など
★★ 教授　関根　正美 博士（体育科学）	研究分野：体育・スポーツ哲学 研究内容のキーワード：スポーツ哲学 スポーツ哲学 スポーツ哲学は「スポーツとは何か」「スポーツを行う人間とは何か」「スポーツが流行している社会とは何か」を考察する学問です。スポーツ諸科学の基盤となる真理の探究と同時に、オリンピック、ドーピング、科学・技術の問題、スポーツに関わる人間の心の問題などといった現実の具体的問題にもアプローチしていきます。具体的には以下の研究領域が考えられます。また、体育（教育）の哲学的問題についても可能です。 ・オリンピック、オリンピズムの思想　・スポーツの実存哲学 ・スポーツ人間学（達成の人間学）　・スポーツ倫理学（ドーピング、フェアネスなどの問題） ・スポーツ緒論（身体論、遊戯論、時間論、科学論）　・スポーツ美学論、舞踊論 ・日本のスポーツ哲学（禅、芸道など）　・諸外国（主に英米、ドイツ語圏）のスポーツ哲学
★ 教授　谷釜　尋徳 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ史 研究内容のキーワード：スポーツ史、運動文化史、遊戯史、身体技法、技術・戦術史、伝統芸能史、旅行史、武術・武道史、オリンピック史、バスケットボール史 スポーツ史とは、スポーツに関わる今日的な問題点に端を発して、それを解決しようとする手掛かりを歴史的な世界に見出そうとする学問分野です。研究指導領域の一例は、以下の通りです。 ・スポーツの伝播／受容／普及の歴史 ・スポーツの技術／戦術の歴史 ・スポーツの修練（練習・稽古）／コーチングの歴史 ・スポーツの用具／施設／産業の歴史 ・スポーツの人物／ルール／制度／学説の歴史

教員名	研究指導領域
★★ 教授　依田　充代 博士（スポーツ健康科学）	研究分野：体育・スポーツ社会学
	研究内容のキーワード：体育・スポーツ社会学
	スポーツ社会学 スポーツ社会学はスポーツと社会の関わりを追及する学問です。また、スポーツの社会学的現象を明らかにし、そこに起きる問題の解決をめざした研究を展開する学問でもあります。研究領域は多岐にわたりますが、具体的にいくつかの研究領域を以下に紹介しておきます。 ① スポーツ社会学の内容と方法　② スポーツと薬物　③ スポーツと暴力　④ 社会規範とスポーツ　⑤ スポーツと政治　⑥ スポーツと経済　⑦ スポーツと環境　⑧ スポーツとマスメディア　⑨ 学社融合　⑩ スポーツ・ボランティア　⑪ スポーツ情報学　⑫ 地域スポーツ　など

（スポーツマネジメントコース）

教員名	研究指導領域
★★ 教授　齋藤　義信 博士(健康マネジメント学)	研究分野：スポーツ・身体活動の疫学、ヘルスプロモーション、健康スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：身体活動、疫学、公衆衛生、健康づくり、健康行動理論、エコロジカルモデル、身体活動支援環境、システムズ・アプローチ、普及と実装科学
	スポーツや身体活動を通じたヘルスプロモーションを計画・実践・評価・改善し、社会に普及・実装する「健康スポーツマネジメント」について研究します。主な研究テーマは以下の通りです。 ① 安全で効果的なスポーツ・身体活動についての疫学研究 ② 公衆衛生やヘルスプロモーションの観点から、スポーツ・身体活動を普及推進するための研究
★★ 准教授　佐野　昌行 博士（体育科学）	研究分野：スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：スポーツのマネジメント、スポーツのマーケティング、スポーツ文化
	スポーツに関係するさまざまな組織や、スポーツと社会の関係について、マネジメント（経営）の視点から研究を深めます。 スポーツマネジメントには、スポーツを利用したマネジメントだけでなくスポーツ自体のマネジメントの側面があることを重視し、文化としてのスポーツの理解と推進を志向する研究を目指します。

（ハイパフォーマンス科学コース）

教員名	研究指導領域
★ 准教授　池田　祐介 博士（スポーツ医学）	研究分野： トレーニング科学・スポーツバイオメカニクス
	研究内容のキーワード：トレーニング科学、競技力向上、キネマティクス、キネティクス、パフォーマンス分析、レジスタンストレーニング
	競技パフォーマンスを向上させるためには、競技特性を明らかにした上で、競技に必要となる要素をトレーニングによって戦略的に高めていく必要があります。本研究室では、スポーツバイオメカニクスや運動生理学の研究手法を用いて、競技に必要な技術や体力要素を分析し、得られた知見を基に効果的なトレーニング方法の開発に取り組んでいます。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 自転車競技におけるペダリングパワー向上のためのトレーニング法の開発: 効果的なペダリング技術を研究し、パワー向上に繋がるトレーニング法を提案します。 ② 下肢の関節トルク、パワーが跳躍動作に及ぼす影響: 跳躍動作における関節トルクとパワーの役割を分析し、パフォーマンス向上のためのトレーニング指導を行います。 ③ 競泳のスタート動作に関する研究: スタート動作の技術向上を目指し、最適な動作パターンとトレーニング方法を探求します。 ④ 効果的なレジスタンストレーニング法の開発: 筋力強化とパフォーマンス向上を目指したレジスタンストレーニングの効果的な手法を開発します。 これらの研究を通じて、アスリートの競技力向上に貢献することを目指しています。

教員名	研究指導領域
★ 教授　大石　健二 博士（体育科学）	研究分野：体育測定評価学、スポーツパフォーマンス分析、教育工学、情報工学 研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス分析、ゲームパフォーマンス分析、戦術、戦略、統計学、確率論、評価項目（測定項目）の検討と開発、分析方法の検討と開発、ICT教育、STEAM教育、ウェアラブルディバイス、GIGAスクール、DX、子ども、幼児、家庭環境、社会環境、生活習慣、運動習慣、体力、運動能力 主な研究テーマは、「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」、「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」と「子ども（主に幼児）を対象とした疫学研究」の3 つになります。全研究領域共通として数値データを用い、統計学や確率論を基礎とした研究となります。 ①「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」 生体ウェアラブルディバイスや小型ビデオカメラの普及により、選手個人の移動（距離・速度）データや心拍数データに加え、パスやシュート等のスポーツパフォーマンスを簡便に数値化することが可能となりました。そのため、GPS データや画像データを用いスポーツを数値化し、勝敗と関連がある項目の検討や今後の試合予測が研究テーマとなります。これらの研究結果から、対象チームのトレーニング内容（課題）を考えます。現在、研究対象とするスポーツ種目の制限を設けてはいませんが、サッカー、ハンドボール、バレーボール、水球など球技種目を主としています。 ②「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」 令和6年度からの高等学校 DX 加速化推進事業により、高等学校における体育授業をはじめ部活動でのICT活用が飛躍的に拡大しています。ただ一方では、これまでの体育や部活動の実施方法を踏襲している学校も散見されます。このように、コロナ禍におけるGIGAスクール構想事業によりディバスの普及は全国に及んだが、ICTの利用については学校間や地域間において格差が生じ始めています。そこで、本研究では高等学校 DX 加速化推進事業採択学校と共同し、STEAM教育コンテンツの開発ならびに体育をはじめとする部活動におけるICT活用による効果検証を実施します。これらの研究結果から、新しい体育授業や部活動における指導方法(コーチング方法)の提案をします。 ③「子ども（主に幼児）を対象とした疫学研究」 子どもの体力・運動能力または健康状態と生活習慣や生活環境との関連性について研究します。具体的には、幼児の25m走、立ち幅とび、テニスボール投げ等の記録や運動の好き・嫌い、風邪や怪我の頻度をアウトカムとし、家庭環境（家族構成・住宅様式等）、生活習慣（起床時刻・習い事等）、施設内環境（保育所や幼稚園・学校間等）、地域間（都市部・農村部等）との関連性について疫学手法を用い検討する研究となります。また、子ども達の日常における身体活動強度や身体活動量を定量化することも研究テーマとしています。現在は、継続測定を実施し体力・運動能力の変化量（率）をアウトカムにした研究を実施しています。これらの研究結果から二極化が懸念されている子ども達の体力・運動能力向上の方策を考えます。
★★ 准教授　大塚　光雄 博士（スポーツ科学）	研究分野：スポーツバイオメカニクス 研究内容のキーワード：運動学、動力学、競技力向上、運動技能、トレーニング 科学的なアプローチによって、アスリートにおける競技力向上や運動初心者における運動技能の改善をねらっています。現在、主に以下の2 つのテーマに取り組んでいます。 ① 高度なデバイス（光学式ハイスピードカメラ、地面反力計、慣性センサーなど）を用いた横断的・縦断的なスポーツ動作の測定・評価 ② 大衆化されたデバイス（スマートフォン、スマートウォッチなど）を用いた運動技能の測定・評価方法の開発 フィールドから実験室まで様々な場所で測定を行い、国際大会で優勝する選手から運動嫌いな子どもまで幅広い運動パフォーマンスの分析を行っています。世界中の研究機関とのネットワークを活用しながら、前例にとらわれずに、スポーツ科学、社会に貢献することを目指しています。
★★ 教授　岡本　孝信 博士（人間科学）	研究分野：運動生理学、スポーツ生理学 研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス、コンディショニング、トレーニング、競技力向上、リカバリー 運動・スポーツ生理学を基盤として、効果的な運動トレーニング法の開発やアスリートの競技力向上とコンディショニングに資する実践的な研究を行います。スポーツ現場に即した研究を進めて行く中で、トレーニングやコンディショニングに関する新しい理論体系の確立を目指します。主な研究テーマは以下の通りです。 ① 心血管系機能を指標としたコンディショニング法の開発 ② 運動・栄養・休養のタイミングがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響 ③ トレーニング効果を高めるポリフェノール摂取法の検討 ④ パフォーマンス向上を目指した機能性食品（クレアチン、グリコーゲンなど）の効果的なローディング法の開発 ⑤ 戦略的リカバリー法の構築 国際的な視野に立って研究を進めたい（国際学会での発表、国際学術雑誌への論文の公表など）と考えている方を歓迎します。

教員名	研究指導領域
★★ 教授　菊池　直樹 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、スポーツ遺伝学 研究内容のキーワード：ストレングス＆コンディショニング、スポーツ遺伝学、遺伝子多型、競技パフォーマンス、筋力トレーニング、高強度インターバルトレーニング、運動と健康 スポーツ遺伝学およびストレングス＆コンディショニングに関わる諸研究を行う。エクササイズによる身体反応や損傷に対するリスクの個人差を解明することで個人対応型のトレーニングおよびコンディショニング方法の確立を目指します。 主な研究テーマは以下のとおりです。 1、エリートアスリートの遺伝特性に関する研究 2、怪我およびサプリメント摂取の感受性に関する遺伝特性の研究 3、遺伝子特性を考慮したトレーニング戦略の開発 4、ストレングストレーニングの効果を最大化するトレーニング変数に関する研究 5、Velocity based training (VBT)および高強度インターバルトレーニングに関する研究 6、中高齢者へのトレーニング介入研究
★★ 教授　杉田　正明 博士（学術）	研究分野：トレーニング科学、体力科学 研究内容のキーワード：競技力向上、トレーニング科学、体力科学、コンディショニング 運動パフォーマンスを高めるトレーニングやコンディショニングに役立つ以下のテーマにおける実践的なスポーツ科学的研究を行っている。 ① 競技スポーツ選手のパフォーマンスと体力要因との関係に関する研究 ② 高地トレーニング、低酸素トレーニングに関する研究 ③ 運動パフォーマンスにおける暑熱、寒冷対策に関する研究 ④ 競技スポーツ選手を対象としたコンディショニングに関する研究 ⑤ 競技選手のパフォーマンス分析に関する研究
★★ 教授　須永　美歌子 博士（医学）	研究分野：運動生理学、トレーニング科学 研究内容のキーワード：月経周期、女性アスリート、コンディショニング、性差、エネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝） 健康なからだを維持しながらパフォーマンスを向上させるためには、戦略的にトレーニングプログラムを構築し、コンディショニング方策を立てる必要があります。本研究室では、ヒトを対象にトレーニングや栄養摂取などの条件の違いが運動パフォーマンスやトレーニング効果に与える影響について運動生理学的手法を用いて分析し、スポーツ現場に還元することを目指して研究に取り組んでいます。 特に性差や月経周期の影響に着目し、以下のような研究を行っています。 ① 月経周期を考慮したコンディショニング法の開発 ② 女性の形態的・生理的特性を考慮したトレーニングプログラムの検討 ③ 「女性アスリートの三主徴」の予防・改善に関する研究
★ 准教授　髙井　秀明 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ心理学 研究内容のキーワード：競技スポーツ、アスリート、ストレス、情報処理過程、心臓自律神経活動 スポーツ心理学に関する基礎的研究を進めており、ヒトの身体活動に伴う情報処理過程や心臓自律神経活動を中心に検討しています。特に、競技スポーツにおけるストレス状況下でのアスリートの心理・生理的反応について明らかにすることを研究課題としています。
★★ 教授　西山　哲成 博士（医学）	研究分野：トレーニング科学、バイオメカニクス、コーチング科学、ハイパフォーマンスサポート 研究内容のキーワード：パフォーマンス向上、バイオメカニクス、生理学、技術・体力評価、科学サポート、ハイパフォーマンスサポート、コーチング、スポーツ支援システム、自転車競技 ① スポーツパフォーマンスを高めるための技術、体力評価、およびそのトレーニング、コーチング方法に関する研究を扱う。 ② バイオメカニクス、および生理学的手法による科学サポート、指導に役立つ基礎的・実践的研究を対象とする。 ③ 指導またはサポート対象となる集団・個人のパフォーマンス向上を目的として、コーチング、医・科学支援、組織運営等を統合したスポーツ支援システムの構築および実践に関する研究を扱う。

教員名	研究指導領域
★★ 教授　黄　仁官 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、体力学、運動処方 研究内容のキーワード：トレーニング科学、競技力向上サポート、運動処方と運動療法、加齢・老化、スポーツ遺伝子 本研究室は、人間の身体能力（体力）、特にトレーナビリティを柱に、多方面からの基礎データの構築による新たな指標の提案及び運動・トレーニング処方の開発に係わる基盤研究を目指しています。 研究領域から理想としている主な内容は、アスリートの競技パフォーマンス向上・維持、それに係わるリスクファクターの原因究明及び改善に繋がる具体的トレーニング手法の提案・理論をスポーツ科学的実践研究として確立させることを研究の狙いとしています（関連して、子供の成長期における発達及び高齢者の健康寿命の為の運動を含む）。
★ 教授　柳沢　香絵 博士（生活科学）	研究分野：スポーツ栄養学 研究内容のキーワード：ポーツ栄養学、コンディショニング、競技パフォーマンス向上、ジュニアアスリート アスリートの競技パフォーマンスの向上および健康の維持、ならびにスポーツ・運動を安全に行うための栄摂取方法および栄養指導法の開発に資する研究を行う。 1. スポーツ栄養学的手法を用いたアスリートの競技パフォーマンスの向上およびコンディショニングの支援に関する研究 2. ジュニアアスリートを対象とした健全な発育と競技パフォーマンスの向上に資する栄養摂取および指導法に関する研究 3. スポーツ・運動実施時の安全性の確保に資する栄養摂取方法（例：熱中症予防のための食事や水分補給等）に関する研究

（健康スポーツ医科学コース）

教員名	研究指導領域
★ 准教授　阿藤　聡 博士（スポーツ健康科学）	研究分野：トレーニング科学、運動生理学、骨格筋生理学 研究内容のキーワード：レジスタンストレーニング、筋肥大、タンパク質代謝、多核体 運動（筋収縮）による骨格筋の量・機能の可塑性機構、特にレジスタンストレーニング（いわゆる筋トレ）による骨格筋量の改善メカニズムについて分子・細胞レベルで理解することを目指して、実験動物や培養細胞など生物学的実験手法と研究グループで確立した実験動物のレジスタンストレーニングモデルを用いて研究を行っています。また、研究成果をアスリートの競技力向上へ利活用することや、加齢に伴う骨格筋量・機能低下（サルコペニア）の改善方法へ応用するための研究についても展開しています。修士課程では研究に必要な実験技術の習得、研究分野を理解するための論文読解力、データの処理・理解、実験により取得したデータを考察して新規の知見として論文化する為の能力を身に着けることを目指します。
★★ 教授　岡田　隆 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、スポーツ整形外科学、アスレティックリハビリテーション 研究内容のキーワード：筋力トレーニング、筋肥大、筋腱複合体、除脂肪、減量、スポーツ外傷・障害、動的関節制御、腰痛、椎間板変性、リカバリー、睡眠、体幹筋、ボディビル、柔道 1.トレーニング科学領域 ① 限局的な筋領域に効果的なトレーニング方法の開発 ・領域特異的および長軸区画的な筋活動に関する研究 ・対象筋の筋活動を増強する内部意識集中に関する研究 ・体幹深部筋のトレーニング方法の開発 ② 高い筋出力を可能にする神経生理学的メカニズムの探索 ③ 筋と腱の関係が形態および機能に及ぼす影響に関する研究 ③ 効果的な体脂肪除去方法（除脂肪）の開発 ④ 睡眠と筋力トレーニングおよび除脂肪に関する研究　　など 2.スポーツ整形外科学、アスレティックリハビリテーション領域 ① 腰痛、椎間板変性 ② 主動筋と拮抗筋による関節の動的制御　など

教員名	研究指導領域
★★ 教授　岡本　孝信 博士（人間科学）	研究分野：運動生理学、健康生理学、予防体育学、健康運動学、健康増進学 研究内容のキーワード：サクセスフルエイジング、ウェルビーイング、健康寿命、座位行動、ストレス、動脈硬化、認知症、サルコペニア、ヘルスプロモーション 若年者から高齢者に至る全ての年代が生涯健康であることを目的に、心血管疾患、介護および認知症を総合的に予防する“総合型生活習慣病予防”を目指した研究を推進します。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 総合型生活習慣病予防を目指したレジスタンス運動および有酸素運動法の開発 ② 健康増進効果を高めるポリフェノール摂取法の検討 ③ 骨格筋電気刺激トレーニングの健康増進効果の解明 ④ 筋、呼吸循環および認知機能の改善に向けた健康増進プログラムの開発 ⑤ 体力、呼吸循環および認知機能の加齢変化の関連探索 ⑥ 長時間座位やストレス誘発性動脈機能障害および認知機能低下予防法の開発 国際的な視野に立って研究を進めたい（国際学会での発表、国際学術雑誌への論文の公表など）と考えている方を歓迎します。
★★ 教授　奥田　拓史 博士（医学）	研究分野： スポーツ医学、ゲノム医学 研究内容のキーワード：腎臓内科、遺伝統計学、GWAS、救急医学、医学教育、プライマリケア、Performing Arts Medicine（演奏芸術医学）、相撲、柔道 スポーツという切り口から、音楽を始めとした舞台芸術もスポーツとして捉え、様々な事象の解明を目指します。当たり前と思っていることが、実は科学的に立証されていないことは意外に多いです。当たり前にやっていること、慣例として行われていることに、「なぜだろう」という疑問を持つとが研究の第一歩です。素朴な問いでもいいので、「なぜ」という気持ちを大切にして、研究を進めていきましょう。各位の「なぜ？」を、Research Questionにするところから、始めましょう。新設の研究室のため、遂行中のテーマはありません。だからこそ、あらゆるテーマを研究課題として設定できます。研究指導者が興味をもっている分野は、下記の通りですが、大学院生自身の関心に基づく研究計画の提案も歓迎します。また、博士課程の大学院生には、積極的に学会発表・論文執筆をしていただきます。 ①スポーツによる腎機能への影響 ②腎不全患者におけるスポーツ ③スポーツと遺伝 ④音楽を運動という側面から捉えた研究 ⑤舞台芸術や対人競技における緊張について
★ 准教授　城所　哲宏 博士（教育学）	研究分野：発育発達学、運動疫学、公衆衛生学 研究内容のキーワード：子ども、身体活動、座位活動、体力、生活習慣病、国際共同研究 子どもを対象に、身体活動を通じた体力向上および生活習慣病予防に関する研究をしています。国内および海外における大規模コホート研究のデータを活用し、疫学的な手法を用いて研究を進めています。主な研究テーマは以下の通りです。 ① 子どもにおける早期生活習慣病予防に関する研究 ② 子どもの身体活動・体力に関する国際共同研究 ③ 身体活動を促進させる環境づくりに関する研究
★ 准教授　鴻﨑　香里奈 博士（体育科学）	研究分野：運動生理学、スポーツ医学、栄養学 研究内容のキーワード：筋損傷、筋肥大、末梢神経損傷、サルコペニア、神経筋接合部、筋電気刺激、栄養介入、ケトジェニックダイエット、スポーツ損傷、伸張性収縮、肉離れ、がん悪液質筋ジストロフィー、代謝、実験動物 スポーツ損傷、加齢現象、疾患などの様々な要因が運動器の機能や構造へ及ぼす影響について検証をおこないます。実験動物（ラット・マウス）や培養細胞を用いた基礎研究、およびヒトを対象とした臨床研究の両方に対応可能です。実験動物や培養細胞による研究では、様々な実験手法の習得およびそれらを用いた実験研究を展開します。ヒトを対象とした研究においても、実験や測定に必要な手法の習得およびそれらを用いた介入実験や調査研究を展開します。研究テーマについては事前に相談した上で決定しますが、現在進行中のテーマは下記の通りです。 ・ 短期間の継続的なケトジェニックダイエットが運動器の機能および構造、全身代謝へもたらす影響を検証する ・ 筋ジストロフィーモデルマウスにおける神経・筋機能と構造異常を検証する ・ 運動誘発性筋損傷による神経損傷の作用機序を解明する ・ 培養筋細胞における特定遺伝子の発現変動が筋タンパク質代謝や構造へもたらす影響を検証する ・ がん悪液質モデル動物における神経の機能・構造変化を検証する 研究によって得られる成果は、幅広い年代を対象とした健康増進、およびスポーツ現場へ積極的に応用することを目指します。
教員名	研究指導領域
	研究分野：顕微解剖学、健康教育学

★ 教授　小林　正利 博士（医学）	研究内容のキーワード：骨格筋の組織化学、健康教育学、運動と糖、乳酸代謝
	健康維持・増進に関わる因子や環境について探索し検討しています。 ① 骨格筋の再生過程に関わる細胞の組織化学的検討 ② 運動と健康関連機能の検討
★★ 教授　齋藤　義信 博士（健康マネジメント学）	研究分野：スポーツ・身体活動の疫学、ヘルスプロモーション、健康スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：身体活動、疫学、公衆衛生、健康づくり、健康行動理論、エコロジカルモデル、身体活動支援環境、システムズ・アプローチ、普及と実装科学
	スポーツや身体活動を通じたヘルスプロモーションを計画・実践・評価・改善し、社会に普及・実装する「健康スポーツマネジメント」について研究します。主な研究テーマは以下の通りです。 ① 安全で効果的なスポーツ・身体活動についての疫学研究 ② 公衆衛生やヘルスプロモーションの観点から、スポーツ・身体活動を普及推進するための研究
★★ 教授　須永　美歌子 博士（医学）	研究分野：運動生理学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：月経周期、女性アスリート、コンディショニング、性差、エネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝）
	健康なからだを維持しながらパフォーマンスを向上させるためには、戦略的にトレーニングプログラムを構築し、コンディショニング方策を立てる必要があります。本研究室では、ヒトを対象にトレーニングや栄養摂取などの条件の違いが運動パフォーマンスやトレーニング効果に与える影響について運動生理学的手法を用いて分析し、スポーツ現場に還元することを目指して研究に取り組んでいます。 特に性差や月経周期の影響に着目し、以下のような研究を行っています。 ① 月経周期を考慮したコンディショニング法の開発 ② 女性の形態的・生理的特性を考慮したトレーニングプログラムの検討 ③「女性アスリートの三主徴」の予防・改善に関する研究
★ 准教授　田村　優樹 博士（学術）	研究分野：分子運動生理学、分子運動代謝学
	研究内容のキーワード：骨格筋、脂肪、メカノバイオロジー、ミトコンドリア、リソソーム、温熱刺激、サルコペニア、廃用性筋萎縮、トレーニング、リハビリテーション
	効果的なトレーニングやリハビリテーションの創出を見据え、分子生物学の手法を用いた基礎研究を実施しています。また、先端的な遺伝子工学や情報科学の技術を駆使して、骨格筋のエネルギー代謝を詳細に理解することを目指しています。研究を現在実施している研究課題は次の通りです。 1．運動や不活動、老化、疾患などに伴う「細胞/ 器官/ 個体の適応」と「分子メカニズム」の解明 2．物理療法の「生物医学的根拠の構築」と「新規適応症の探索」 3．新規栄養素材の「探索・有効性検証」と「トレーニング/ リハビリテーションへの応用」
★★ 教授　津山　　薫 博士（体育科学）	研究分野：発育発達
	研究内容のキーワード：子ども、中高齢者、アスリート、運動能力、トレーニング
	① 身体運動や生活習慣が体力に及ぼす影響　② 子どもの体力と運動との関係　③ 中高齢者の体力と運動との関係、などがおもな研究指導領域です。
★★ 教授　中里　浩一 博士（学術）	研究分野：スポーツ生理・生化学、基礎スポーツ医学
	研究内容のキーワード：加齢、筋損傷、筋肥大、筋萎縮、動物・細胞モデル、遺伝子多型、筋タンパク質合成、筋タンパク質分解、細胞外マトリックス
	力学的刺激を含む幅広い外的因子への筋骨格系組織（骨格筋、腱、靭帯など）の生理・生化学的応答あるいは適応を分子・細胞・組織レベルで検討していくことを主なテーマとします。スポーツ生理、トレーニング方法、スポーツ損傷、スポーツ医学など応用的な展開を常に意識して研究を進めていきます。特に分子レベルでの検討を中心とすることおよび自分自身で手を動かしてデータを出してもらうことを求めますので、本研究室を希望する学生は相当の時間と労力を使う覚悟が必要です。その代わり得られるものも十分にあると思います。具体的なテーマは以下のとおりです。 ① 実験モデル（動物・細胞）を用いた筋損傷発生および修復過程の分子メカニズムの解析 ② 実験モデル（動物・細胞）を用いた随意あるいは不随意での筋力トレーニングに対する骨格筋適応の分子メカニズムの解析 ③ 加齢あるいは全身炎症に伴う骨格筋萎縮のメカニズム解明とその克服 ④ ヒト遺伝子構造の多型性が筋骨格系組織に与える影響の基礎的検討

教員名	研究指導領域
★★ 教授　橋本　典生 博士（医学）	研究分野：医学
	研究内容のキーワード：サルコペニア、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、スポーツ喘息、呼吸機能
	慢性閉塞性肺疾患（COPD）の死亡リスク因子は身体活動性の低下でありサルコペニアが関与している。また、サルコペニアを合併することで呼吸困難感も増悪するため、サルコペニア合併に伴う身体活動性の低下や呼吸機能への影響を詳細に検討することが求められている。臨床研究において患者さんより各種パラメーターを測定することで、身体活動や呼吸機能低下の改善につながるリハビリテーションへと応用して行きたいと考えている。また、スポーツ喘息や熱中症予防に関しても興味を持っている。 主な研究内容 ① COPDサルコペニアに対する運動療法の効果 ② 尿中エクソソームを用いたサルコペニアの診断の可能性 ③ 老人施設在住の高齢者の呼吸筋サルコペニアと誤嚥性肺炎の関連 ④ スポーツ喘息と血中のn-3 系多価不飽和脂肪酸やn-6 系多価不飽和脂肪酸の関連 ⑤ 頸部冷却の熱中症予防の可能性

（身体教育・健康教育コース）

教員名	研究指導領域
★★ 教授　近藤　智靖 博士（体育科学）	研究分野：体育科教育学、スポーツ教育学
	研究内容のキーワード：カリキュラム、体育授業研究、教材・教師
	① 体育科のカリキュラム論 ・体育の教育課程における目標に関する研究 ② 体育科の学習指導論 ・体育の教材に関する研究 ・教師行動に関する研究 ③ 体育授業研究 ・体育における学習効果に関する研究 ・児童生徒行動に関する研究
★★ 教授　鹿野　晶子 博士（体育科学）	研究分野：学校保健学、発育発達学
	研究内容のキーワード：子どものからだと心、養護教諭
	子どものからだと心、それを支える養護教諭をテーマとし、日常的には、子どものからだと心に関する学校教育現場等での野外調査に従事しながら研究をすすめている。 主な研究領域は　① 養護教諭の職務と養護活動、保健室の機能　② 学校保健　③ 子どものからだと心の健康課題全般とする。
★★ 教授　鈴川　一宏 博士（医学） 博士（体育科学）	研究分野：ヘルスプロモーション、公衆衛生学
	研究内容のキーワード：生活習慣、運動習慣、防衛体力、メンタルヘルス、ヘルスプロモーション、運動部活動
	本研究指導領域では、保健体育教諭および養護教諭が担うべき、子どもにおける体育・スポーツの意義、学校現場における健康教育、さらにはヘルスプロモーションに関する諸課題を対象とする。とりわけ、子どもの生活習慣や運動習慣が身体的・精神的健康に及ぼす影響について、防衛体力を中心とした測定・調査を通して科学的に検証し、健康の保持増進に資する運動の必要性を明らかにしていく。 また、本学の特色を踏まえ、スポーツ選手のコンディショニングや、運動部活動に参加する生徒の防衛体力・健康状態の分析を行い、運動部活動の教育的・健康学的意義およびその課題についても検討する。これらの研究を通じて、学校保健・健康教育・スポーツ活動を相互に関連づけ、子どもの健康づくりを総合的に理解するための新たな知見を生み出すことを目指す。 ①健康の保持増進を目的とした運動の効果に関する研究（生活習慣病予防等） ②子どもにおける体育・スポーツの必要性に関する研究（生活習慣、運動習慣、防衛体力、免疫能、健康感、メンタルヘルス等） ③子どもの健康管理・健康教育・健康対策に関する研究 ④学校保健およびヘルスプロモーションに関する研究 ⑤健康およびメンタルヘルスの観点からみた運動部活動に関する研究

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　鈴木　康介 博士（スポーツ科学）	研究分野：体育科教育学、スポーツ教育学 研究内容のキーワード：体育科教育学、スポーツ教育学、教材開発、運動指導 （1） 体育科の学習指導に関する研究 ① 体育の授業づくり、教材づくり、教材構成に関する研究 ② 体育における運動指導に関する研究 ③学校における教科横断的な学びに関する研究 （2） 幼少期における運動指導に関する研究 ①幼少期の子どもの動きに関する研究 ② 教育課程内・課程外における子ども（幼児・児童・生徒）の運動指導に関する研究
★★ 准教授　寺岡　英晋 博士（教育学）	研究分野：スポーツ教育学 研究内容のキーワード：カリキュラム、教師行動、学習成果、評価、教師教育、国際協力、卓球 学校体育・スポーツ活動が多様な教育課題の解決にどのように貢献できるかを探求することを主なテーマとしています。 具体的には、以下のようなテーマが研究指導領域になります。 ①教師行動の測定と評価 ②児童生徒の社会・情意領域の学習成果を生み出すメカニズムの解明 ③教師の資質向上を図る教育プログラムの開発と評価 ④カリキュラム分析と国際比較 ⑤ 体育・スポーツを通じた国際協力に関わる研究 上記以外でも、教育学的研究で関連するキーワードに該当するテーマも歓迎します。
★★ 教授　野井　真吾 博士（体育科学）	研究分野：教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学 研究内容のキーワード：教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学、子どものからだ、子どもの体力、子どもの健康 キーワードは、「子ども」「からだ」「心」「体力」「健康」「元気」「生活」。 研究領域は、教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学。具体的には、子どものからだ、心、体力、健康、元気、生活が「どこかおかしい」、「ちょっと気になる」、「なんか心配」といった保育・教育現場の教諭や養護教諭、さらには、子育て中のお母さん、お父さんの“実感”をたよりに、子どものからだにこだわってその“事実”を明らかにし、“実体”を追究する活動（問題を発見するための研究）と、発見された健康課題を改善し、子どもの元気を具現化するための活動（問題を解決するための研究）とに努めている。

■コーチング科学学位プログラム（コース毎・50 音順）

教員名	研究指導領域
★★ 教授　伊藤　雅充 博士（学術）	研究分野：コーチング学、コーチ教育 研究内容のキーワード：アスリートセンタードコーチング、コーチ教育、コーチデベロッパー 我々の研究室では、アスリート・センタード・コーチングをキーワードとして学習者中心の指導のあり方を研究している。研究テーマはコーチングのWHAT（アスリートを対象にした研究）ではなく、コーチングのHOW（コーチを対象にした研究）である。研究手法として質的研究および量的研究、あるいはその両方を組み合わせた混合研究法を採用する。博士後期課程においては将来のコーチデベロッパー、あるいはコーチ教育者として自身のスキルを磨くことも行う。

教員名	研究指導領域
★ 教授　大石　健二 博士（体育科学）	研究分野：体育測定評価学、スポーツパフォーマンス分析、教育工学、情報工学
	研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス分析、ゲームパフォーマンス分析、戦術、戦略、統計学、確率論、評価項目（測定項目）の検討と開発、分析方法の検討と開発、ICT教育、STEAM教育、ウェアラブルディバイス、GIGAスクール、DX
	主な研究テーマは、「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」と「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」の2 つになります。両研究領域共通として数値データを用い、統計学や確率論を基礎とした研究となります。 ①「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」 生体ウェアラブルディバイスや小型ビデオカメラの普及により、選手個人の移動（距離・速度）データや心拍数データに加え、パスやシュート等のスポーツパフォーマンスを簡便に数値化することが可能となりました。そのため、GPS データや画像データを用いスポーツを数値化し、勝敗と関連がある項目の検討や今後の試合予測が研究テーマとなります。これらの研究結果から、対象チームのトレーニング内容（課題）を考えます。現在、研究対象とするスポーツ種目の制限を設けてはいませんが、サッカー、ハンドボール、バレーボール、水球など球技種目を主としています。 ②「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」 令和6年度からの高等学校 DX 加速化推進事業により、高等学校における体育授業をはじめ部活動でのICT活用が飛躍的に拡大しています。ただ一方では、これまでの体育や部活動の実施方法を踏襲している学校も散見されます。このように、コロナ禍におけるGIGAスクール構想事業によりディバスの普及は全国に及んだが、ICTの利用については学校間や地域間において格差が生じ始めています。そこで、本研究では高等学校 DX 加速化推進事業採択学校と共同し、STEAM教育コンテンツの開発ならびに体育をはじめとする部活動におけるICT活用による効果検証を実施します。これらの研究結果から、新しい体育授業や部活動における指導方法(コーチング方法)の提案をします。
★★ 准教授　佐良土　茂樹 博士（哲学）	研究分野：コーチング学
	研究内容のキーワード：コーチング学原論、コーチング哲学、コーチ育成、バスケットボール、マインドスポーツ（将棋）
	コーチングはそもそもどのような営みであるのかを考える原論の研究、コーチが持っている哲学についての研究、および、コーチの学びを中心とするコーチ育成やその学びを支援するコーチデベロッパーについての研究を行っています。また、近年はコーチングに関わる概念、さまざまな思想に基づいたコーチングのあり方、コーチの生き方についても研究を進めています。基本的にスポーツ全般を研究対象としていますが、特にバスケットボールに関する研究を専門としています。
★★ 教授　杉田　正明 博士（学術）	研究分野：コーチング学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：スポーツ科学を活用したコーチング、トレーニング科学、体力科学、コンディショニング、パフォーマンス分析
	より効果的なコーチングの実践に活かすため、競技スポーツ選手の運動パフォーマンスを高める体力要因やコンディショニングのプログラムを開発するとともに、様々なトレーニング法やその効果について、主としてスポーツ生理学的な手法を用いた研究や様々な競技のパフォーマンス分析を行っている。それらを通して、コーチングに資するスポーツ科学の実践研究を行う。
★ 准教授　髙井　秀明 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ心理学
	研究内容のキーワード：スポーツメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング、リラクセーション
	アスリートの競技力向上や実力発揮を目指した、スポーツメンタルトレーニングとスポーツカウンセリングに関する実践的研究に取り組んでいます。特に、ストレスの対処方略として活用されている自律訓練法や漸進的弛緩法、バイオフィードバック法などのリラクセーション技法の効果について検討しています。
★★ 教授　西山　哲成 博士（医学）	研究分野：トレーニング科学、バイオメカニクス、コーチング科学、ハイパフォーマンスサポート
	研究内容のキーワード：パフォーマンス向上、バイオメカニクス、生理学、技術・体力評価、科学サポート、ハイパフォーマンスサポート、コーチング、スポーツ支援システム、自転車競技
	① スポーツパフォーマンスを高めるための技術、体力評価、およびそのトレーニング、コーチング方法に関する研究を扱う。 ② バイオメカニクス、および生理学的手法による科学サポート、指導に役立つ基礎的・実践的研究を対象とする。 ③ 指導またはサポート対象となる集団・個人のパフォーマンス向上を目的として、コーチング、医・科学支援、組織運営等を統合したスポーツ支援システムの構築および実践に関する研究を扱う。
★ 教授　南部　さおり 博士（医学）	研究分野：医学、法学、心理学、社会学、社会科学複合分野
	研究内容のキーワード：児童虐待、体罰、部活動の安全指導、学校事故、少年非行
	スポーツ危機管理学 スポーツにおける安全指導、スポーツ事故の原因分析と再発防止、体罰・パワハラ・暴言指導に関する研究、学校部活動のあり方に関する研究、学校体育における苦手克服・楽しい体育・安全指導、スポーツ指導者の資質向上、スポーツ活動が少年非行と犯罪に及ぼす影響など学校安全に関する研究 いじめ、ブラック部活動、教員の不適切指導、教育現場でのハラスメント、対教師暴力、不登校問題など児童虐待、親子関係が子の社会化に及ぼす影響に関する研究

［博士後期課程］研究指導教員一覧表(研究指導補助教員を含む)

（教員資格欄）指導－研究指導教員、(補助)－研究指導補助教員　　市街局番：　東京(03)　横浜(045)

	教員資格	氏名	フリガナ	所属学位プログラム	東京・世田谷キャンパス	横浜・健志台キャンパス	メールアドレス
あ	(補助)	阿藤　聡	ｱﾄｳ ｻﾄﾙ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）		507-7829	ato.s@nittai.ac.jp
	(補助)	池田　祐介	ｲｹﾀﾞ ﾕｳｽｹ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース）		963-7946	yusuke-ikeda@nittai.ac.jp
	指導	伊藤　雅充	ｲﾄｳ ﾏｻﾐﾂ	コーチング科学学位プログラム	5706-0995		itom@nittai.ac.jp
	(補助)	大石　健二	ｵｵｲｼ ｹﾝｼﾞ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース） コーチング科学学位プログラム	5706-1096		oishi@nittai.ac.jp
	指導	大塚　光雄	ｵｵﾂｶ ﾐﾂｵ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース）		479-7115	otsuka.m@nittai.ac.jp
	指導	岡田　隆	ｵｶﾀﾞ ﾀｶｼ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-1024		t-okada@nittai.ac.jp
	指導	岡本　孝信	ｵｶﾓﾄ ﾀｶﾉﾌﾞ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース） 体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0966		tokamoto@nittai.ac.jp
	(補助)	荻　浩三	ｵｷﾞ ｺｳｿﾞｳ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-1213		k-ogi@nittai.ac.jp
	指導	奥田　拓史	ｵｸﾀﾞ ﾋﾛｼ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0991		h.okuda@nittai.ac.jp
か	指導	菊池　直樹	ｷｸﾁ ﾅｵｷ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース）		530-5861	n.kikuchi@nittai.ac.jp
	(補助)	城所　哲宏	ｷﾄﾞｺﾛ ﾃﾂﾋﾛ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-1426		kidokoro@nittai.ac.jp
	(補助)	鴻崎　香里奈	ｺｳｻﾞｷ ｶﾘﾅ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）		507-7820	kouzaki@nittai.ac.jp
	(補助)	小林　正利	ｺﾊﾞﾔｼ ﾏｻﾄｼ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-1251		m-kobayashi@nittai.ac.jp
	指導	近藤　智靖	ｺﾝﾄﾞｳ ﾄﾓﾔｽ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-1337		kondohtomoyasu@nittai.ac.jp
さ	指導	齋藤　義信	ｻｲﾄｳ ﾖｼﾉﾌﾞ	体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）		479-6516	ysaito@nittai.ac.jp
	指導	佐野　昌行	ｻﾉ ﾏｻﾕｷ	体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース）		479-7596	msano@nittai.ac.jp
	指導	佐良土　茂樹	ｻﾛｳﾄﾞ ｼｹﾞｷ	コーチング科学学位プログラム	5706-0943		sarodo@nittai.ac.jp
	指導	鹿野　晶子	ｼｶﾉ ｱｷｺ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0950		shikano.a@nittai.ac.jp
	指導	杉田　正明	ｽｷﾞﾀ ﾏｻｱｷ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース） コーチング科学学位プログラム	5706-1148		m-sugita@nittai.ac.jp
	指導	鈴川　一宏	ｽｽﾞｶﾜ ｶｽﾞﾋﾛ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0972		suzukawa@nittai.ac.jp
	指導	鈴木　康介	ｽｽﾞｷ ｺｳｽｹ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0960		suzuki-kosuke@nittai.ac.jp
	指導	須永　美歌子	ｽﾅｶﾞ ﾐｶｺ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース） 体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-1360		sunaga@nittai.ac.jp
	指導	関根　正美	ｾｷﾈ ﾏｻﾐ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-0935		msekine@nittai.ac.jp
た	(補助)	髙井　秀明	ﾀｶｲ ﾋﾃﾞｱｷ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース） コーチング科学学位プログラム	5706-0863		takai@nittai.ac.jp
	(補助)	谷釜　尋徳	ﾀﾆｶﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-0982		tanigama.h@nittai.ac.jp
	(補助)	田村　優樹	ﾀﾑﾗ ﾕｳｷ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0933		y-tamura@nittai.ac.jp
	指導	津山　薫	ﾂﾔﾏ ｶｵﾙ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）		963-7939	tsuyamak@nittai.ac.jp
	指導	寺岡　英晋	ﾃﾗｵｶ ｴｲｼﾝ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0975		eishin.teraoka@nittai.ac.jp
な	指導	中里　浩一	ﾅｶｻﾞﾄ ｺｳｲﾁ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0821	507-1644	nakazato@nittai.ac.jp
	(補助)	南部　さおり	ﾅﾝﾌﾞ ｻｵﾘ	コーチング科学学位プログラム	5706-0945		nambu3@nittai.ac.jp
	指導	西山　哲成	ﾆｼﾔﾏ ﾃﾂﾅﾘ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース） コーチング科学学位プログラム		963-7994	nishiyama@nittai.ac.jp
	指導	野井　真吾	ﾉｲ ｼﾝｺﾞ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-1543		nois@nittai.ac.jp
は	指導	橋本　典生	ﾊｼﾓﾄ ﾐﾂｵ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0862		mitsuo-hashimoto@nittai.ac.jp
	指導	黄　仁官	ﾌｧﾝ ｲﾝｶﾝ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース）		963-7943	hwang@nittai.ac.jp
や	指導	依田　充代	ﾖﾀﾞ ﾐﾂﾖ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-0944	479-8186	3.yoda@nittai.ac.jp

Web出願サイトによる登録だけでは出願完了となりません。必ず支払期限までに入学検定料を支払い、必要書類提出期限までに特定記録・速達郵便にて送付してください。必要書類が本学で受理された時点で出願完了となります。必要書類提出期限までに届かない必要書類はいかなる理由でも受け付けません。

Web出願の流れ

入学検定料支払い前であれば、正しい出願内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

出願完了までの流れは、以下の通りです

STEP 1 事前準備 → STEP 2 出願サイトにアクセス → STEP 3 マイページの登録 → STEP 4 出願内容の登録 → STEP 5 入学検定料の支払い → STEP 6 必要書類の郵送 → STEP 7 出願完了 → 受験票の印刷

STEP 1 事前準備

インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。（スマートフォン、タブレットは非推奨）
必要書類※は、準備に時間を要する場合があります。早めに準備を始め、出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。
※必要書類…調査書、顔写真データ、各選抜毎の提出書類など



STEP 2 Web出願サイトにアクセス

Web出願サイト ▶ **https://e-apply.jp/ds/nittai-net/**

または、

大学ホームページ ▶ **https://www.nittai.ac.jp/**

からアクセス



STEP 3 マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP4に進んでください。



①初めて登録する方は
マイページ登録 から
ログインしてください。



②メールアドレスの登録を行って
仮登録メールを送信 > を
クリックしてください。



③ユーザー登録画面から
ログインページへ を
クリックしてください。



④登録したメールアドレスに
初期パスワードと
本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。



⑤ログイン画面から
登録したメールアドレスと④で届いた『初期パスワード』にて
ログイン を
クリックしてください。



⑥初期パスワードの変更を
行ってください。



⑦表示された個人情報を入力して
次へ を
クリックしてください。



⑧個人情報を確認して
この内容で登録する を
クリックしてください。



⑨登録完了となります。
マイページへ を
クリックしてください。



⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、出願手続きを行う ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
登録期間外の場合は、これより先に進めませんので ログアウト ボタンをクリックしてください。

STEP 4

出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。



①マイページログイン後の
出願手続きを行う ボタン
から登録画面へ



②大学・大学院区分の選択



③選抜区分選択と留意事項の
確認



④志望学部等の選択



⑤顔写真のアップロード
写真選択へ ボタンをクリックし
写真を選択します。



⑥個人情報（氏名・住所等）の
入力



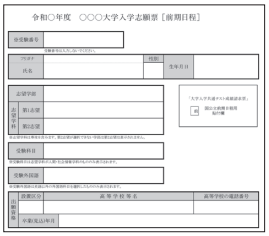
⑦出願内容の確認
志願票（サンプル） ボタンを
クリックすると志願票が確認できます。



⑧申込登録完了
引き続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。



⑨入学検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑩出願に必要な書類PDF
（イメージ）
※検定料納入後に出力可能となります。

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号メモ（13桁）													

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

オンライン決済番号メモ（11桁）										

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号メモ（11桁）											
確認番号メモ（6桁）											
収納機関番号（5桁）	5	8	0	2	1						

※収納機関番号は、ペイジーでお支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元（@e-apply.jp）からのメール受信を許可してください。　※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。

入学検定料支払い前であれば正しい出願内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードまたはネットバンキングを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

STEP 5

入学検定料の支払い

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】
VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、MUFGカード、DCカード、UFJカード、NICOSカード

Webで手続き完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

セブン-イレブン
デイリーヤマザキ
セイコーマート

●店頭端末を利用して支払い可能

Loppi
LAWSON
MINISTOP
マルチコピー機
FamilyMart

4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。

※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア

セブン-イレブン	デイリーヤマザキ ヤマザキデイリーストアー	ローソン ミニストップ	ファミリーマート	セイコーマート
店頭レジ	店頭レジ	Loppi	マルチコピー機	店頭レジ
レジで「インターネット代金支払い」と伝える	レジで「オンライン決済」と伝える	「各種番号をお持ちの方」を選択	「代金支払い/チャージ（コンビニでお支払い Payment/Charge）」を選択	レジで「インターネット代金支払い」と伝える
「払込票番号（13桁）」を伝える	「オンライン決済番号（11桁）」を伝える	「お客様番号（11桁）」入力	「お客様番号（11桁）」入力	「オンライン決済番号（11桁）」を伝える
		「マルチペイメントサービス」を選択		
		「確認番号（6桁）」入力	「確認番号（6桁）」入力	
		支払い内容確認	支払い内容確認	
レジで検定料を現金で支払う※		発券された申込券（受付票）をレジへ持参し、検定料を現金で支払う※ 申込券（受付票）発行後は30分以内にレジにて支払ってください。		レジで検定料を現金で支払う※
領収書（レシート形式）を必ず受け取る		取扱明細書兼領収書を必ず受け取る		

4 銀行ATM

Pay-easy 利用ATM
ペイジー対応銀行ATM
「税金・料金払い込み」などを選択
収納機関番号「58021」を入力
「お客様番号（11桁）」入力
「確認番号（6桁）」入力
支払い内容確認
「現金」「キャッシュカード」を選択し支払う※
ご利用明細書を必ず受け取る

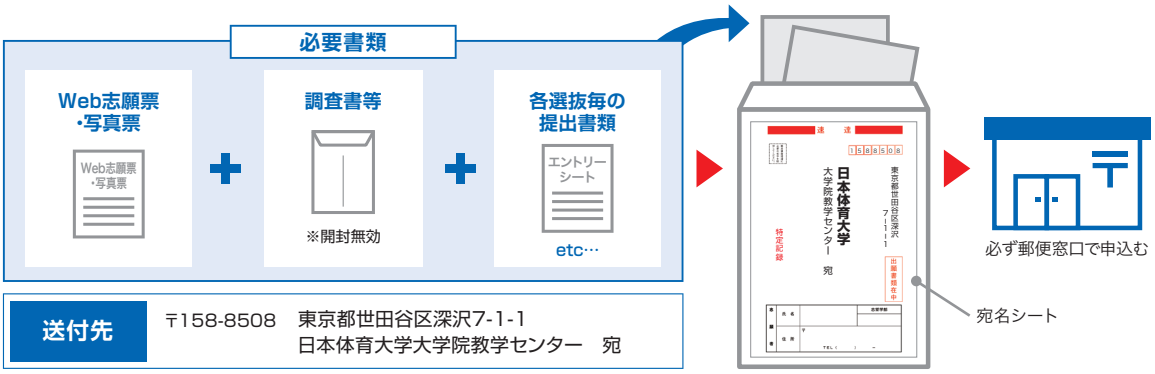
※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合、現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

STEP 6

必要書類の郵送

Web出願登録・入学検定料支払いを行っただけでは出願は完了していませんので注意してください。

登録完了画面または確認メールに記載されている必要書類を、出願期間内に郵便局窓口から「速達・特定記録郵便」で郵送してください。（出願期間内消印有効）



送付先　〒158-8508　東京都世田谷区深沢7-1-1
日本体育大学大学院教学センター　宛

■出願書類

出願書類に関しては以下の表を確認してください。

必要書類	必要部数	内　容
①Web志願票・写真票	各1	入学検定料支払後、出力可能となります。 A4サイズで印刷し、切り取り線に沿って切り取ってください。
②各選抜毎の提出書類	1	詳細は、各選抜の提出書類を確認してください。

※出願受理した必要書類は一切返却しません。

〈出願完了〉

出願時の注意点

出願はWeb出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、必要書類を郵送して完了となります。登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

Web出願は24時間可能です。ただし、出願登録は出願締切日23時まで、入学検定料の支払いは出願締切日まで（営業時間はコンビニエンスストアやATMなど、施設によって異なります）、必要書類の郵送は出願期間内消印有効です。

STEP 7

受験票の印刷

本学で出願を確認後、各入試毎に**出願期間受付終了後から試験3日前までに**一斉に受験票を配信します。インターネット出願システムよりダウンロードできる状態にしますので、必ず印刷し、試験当日持参してください（**※郵送はいたしません**）。

※受験票のダウンロードが可能になりましたら、出願時に登録したアドレスへメールで通知します。

【印刷に関する注意事項】受験票は必ずA4用紙に**片面印刷**にしてください。



≪出願写真に関する注意事項≫

適切な写真例



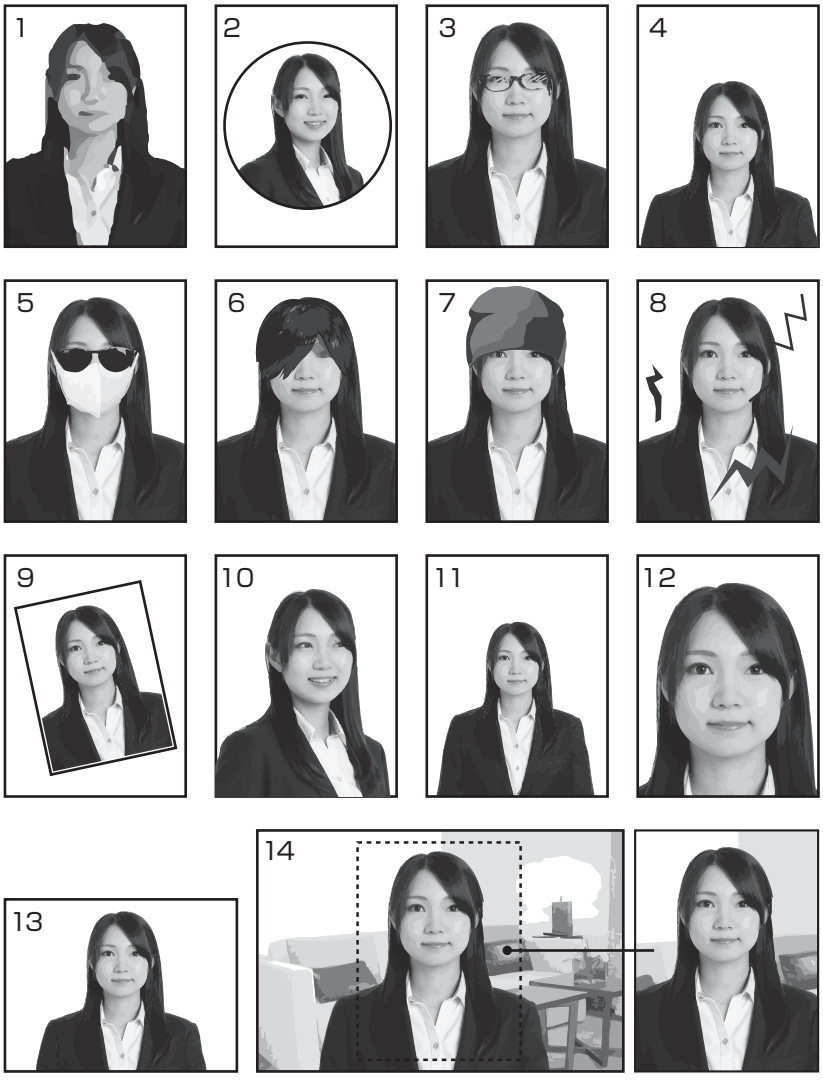
縦４cm

横 3cm

■写真の規定

- ●写真サイズは縦４cm× 横 3cm
- ●カラー写真、白黒写真いずれも可とします
- ●出願前３ヶ月以内に撮影したもの
- ●背景は無地（白・青・グレー）に限ります
- ●正面を向いた本人の顔がはっきり確認できるもの
- ●上半身で脱帽、頭部全体が写っている
- ●所定用紙（受験票・写真表・志願表）に貼付する写真は、全て同一の写真を貼付してください

下記項目に該当する場合は受付できませんのでご注意してください。



■ 受付できない写真例

1, 被写体が不鮮明（画像が荒い）

2, スナップ写真･SNS･ブログ等から流用した写真

3, 眼鏡のレンズに光が反射している

4, 頭上の余白部分が多い

5, サングラスやマスクをしている

6, 前髪や前髪の影で目を隠し、顔が確認できない

7, ヘアバンドや帽子で頭髪を覆っている

8, 変色していたり、キズや汚れがある

9, 証明写真を再撮影したもの

10, 被写体が正面を向いていない

11, 被写体が小さい

12, 被写体が大きすぎて写真からはみ出している

13, 写真サイズが横に長い

14, 背景に家具等が写っている

※該当する場合は必ず撮り直してください。